

地域開放型学校図書館の運用の考え方等について

令和2年度から開設する地域開放型学校図書館の運用については、子どもや乳幼児親子等の利用だけでなく、広く区民全般の利便性向上を図る必要があることから、区民が利用できる運用形態とする方向で検討する。

また、「今後の図書館サービスのあり方検討会」の検討結果をまとめたので、別紙のとおり報告する。

1 検討する運用形態等

- (1) 開館時間 平日、土日祝日、長期休業日のいずれも午前9時から午後8時まで
(休館日は別に定める)
- (2) 蔵書構成 絵本、児童書に加え一般向け図書を一定数配架する
- (3) 蔵書の貸出 絵本、児童書、一般図書の貸出を行う
- (4) 予約図書の受取・返却
予約図書の受取・返却は開館時間中に取り扱う

2 運用上の留意事項

「小学校に地域開放型学校図書館を整備し、家庭・地域・学校との連携による子どもたちの自主的な読書活動の推進や、乳幼児親子の読書活動を支援するとともに、地域活動や交流の拠点として活用します。」(『中野区教育ビジョン(第3次)』)という地域開放型学校図書館の趣旨を踏まえ、効果を検証する。

3 開設予定時期(令和2年度・3年度)

令和2年9月 みなみの小学校 美鳩小学校

令和3年4月 中野第一小学校

「今後の図書館サービスのあり方検討会」の検討結果

1 検討課題

- (1) 滞在型利用等新たな利用者ニーズへの対応
- (2) ICTの進展等社会環境の変化への適応
- (3) 学校図書館の機能充実と地域開放
- (4) 図書館サービス網のあり方

2 検討委員等

町会連合会 1名/友愛クラブ連合会 1名/福祉団体連合会 1名/地区委員会 1名/
子育てひろば運営者 1名/図書館ボランティア 1名/小学校長 1名/中学校長 1名/
図書館長 1名/公募 2名/コーディネータ 2名/行政 1名

3 開催日時

- 第1回 令和元年 8月29日（木曜日）16時から18時
- 第2回 令和元年 9月27日（金曜日）18時から20時
- 第3回 令和元年 10月30日（水曜日）18時から20時
- 第4回 令和元年 11月19日（火曜日）18時から20時

4 主な意見

(1) 滞在型利用等新たなニーズへの対応/ICTの進展等社会環境の変化への適応

① 滞在型サービス・居場所

- お茶を飲みながら本を読むことができる場所が望ましい。現状では難しいかもしれないが、実現できれば心豊かなスペースになるのではないか。
- 高齢者の居場所、参加できる場としての図書館も考えて欲しい。
- 居場所としての機能を図書館に求める人も多く、それぞれのニーズを成立させるためには、明確なゾーニングが必要となる。

② アウトリーチサービス

- アウトリーチという面では、現状では子ども施設側から動かないと動かない。ブックトークなども、児童館やすこやか福祉センターにも出向いたらどうか。
- 集う場所が図書館でなければならないという理由には疑問を感じる。例えば、子育てひろばに図書館員が出張して本の読み聞かせや紹介をしてもいいのではないか。
- 他団体との連携については、中野区では子ども食堂なども盛んであり、それらとの連携も模索してはどうか。

③ ユニバーサルデザイン

- 読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が制定された。それを踏まえ、身体障害者手帳を所持しない場合も、医師の診断書でデイジー図書の利用ができるよう配慮して欲しい。
- デイジー図書、対面朗読室、拡大読書器等障害者向けサービスはあるが、なかなか認知されていない。サービスの周知には工夫が必要ではないか。

- 自動貸出機などの導入の際も、音声案内を行うなど視覚障害者にも使えるような配慮をしてもらいたい。
- ICT化を進めていくにあたっては、合理性や便宜性だけではなく、人の目や手というものを大事にしてほしい。また、高齢者と障害者の対応を区分せず、一体的に行うことが必要である。

④ (仮称) 中野東図書館 (中野東中学校等複合施設内図書館)

ア 7階「子どものフロア」

- 図書館で子どもが走り回るのには違和感がある。地域には子育て支援で1日預かってくれる施設もあり、図書館内にそういうエリアをつくるのであれば調整が必要だと思う。
- 予約室を子どものフロアと一緒にすると小さな子とトラブルが懸念されるため、分けた方がいいと思う。
- 子どものフロアを誰でも利用できるというのは、どこの自治体でも問題になっており、結局大人が占拠していることも多い。運営がうまくいっているところは、大人を入れない。この辺は感染症対策の点からも専用スペースとすることが望ましい。
- ティーンズルームなどの自習室を設置するとのことだが、設置するのならば、もっと広くしてほしい。

イ 9階「ビジネス・コミュニティフロア」

- ビジネス支援については、ニーズはあるかもしれないが、用途は限定しない方がいいのではないか。

ウ その他

- 子ども・子育て世帯、障害者、高齢者、地域の人、司書で運営協議会のようなものをつくって、定期的に運営について話し合ったらどうか。
- 自動販売機は、いちいち9階まで行くのは不便ではないか。親子の利用を考えると、7階にも設置した方がいい。

⑤ その他

- 学校図書館と区立図書館の連携のため、協議会のようなものを設置してはどうか。
- 司書が選んだ絵本を毎月自宅に配送するようなサービスができないか。

(2) 学校図書館の機能充実と地域開放

① 学校図書館の機能充実

- 学校図書館は、読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を有するが、蔵書が十分でない学校もある。
- 今後の課題は、学習センター機能の拡充ではないか。来年度から区立図書館と学校図書館がオンラインシステムでつながり、学校図書館にない本が区立図書館にある場合、すぐに借り受けられるようになる。これには期待している。
- 学校図書館と中央図書館との連携はある程度できており、今後一層の充実が望まれる。
- 図書館との距離については、小学校としては、見学や体験ができる距離に図書館があると良いと思う。近い方が団体貸出も利用しやすい。
- 学校図書館指導員は授業にも非常に有効である。全体を束ねるような存在があり、指導員への研修や改善策の提案などがされるようになると良い。
- 日本の公共図書館は学校教育への関心が低く、教科書の収集も行わず、教育現場か

らの要望を把握しきれていないように思う。今後、教科書も収集し、子どもたちがどういう教育を受けているかを知る必要があるのではないか。

② 地域開放型学校図書館

- 地域開放型学校図書館は面積も狭く、図書3千冊から5千冊程度であれば、単なる図書の受け渡し場所にしかないのではないか。
- 9時から20時まで開設するよりも、児童館などに図書館がアウトリーチサービスを行う方が望ましく、学校内のキッズ・プラザの面積を拡げたほうが良いと思う。
- 子どもは走り回りたいし声を出すので、学校の防音設備などが気になりである。
- 乳幼児や高齢者にはいいかもしれないが、学校が好きではない子どもも一定数はいる。児童館がなくなり、キッズ・プラザも図書館も学校に入るとなると、学校が苦手な子の行き場がなくなるのではないか。
- 誰でも入れてしまうことは不安である。誰が来ても拒めない。転出入も多い中野区ではセキュリティ対策も難しいと思うので、再検討してほしい。
- 敷地も狭く、図書館、キッズ・プラザを入れると、校庭が狭くなり児童のためにならない。一律に整備するのではなく、地域の実情も考慮し、臨機応変に検討していくことも必要ではないか。
- 学校図書館の区画と区立図書館分館の区画を分けるのではなく、一つのものとして時間を分けて利用するなどを考えれば、現状より広く、蔵書も増加し、寝そべったり、自習したりと用途的にも広がるのではないか。
- 利用対象を子どもに特化できるのであれば、有効な運用が可能になるかもしれない。
- 本町図書館、東中野図書館を閉館せず、地域図書館のサービスを充実させ、800メートル圏内に図書館があるようにすれば、地域開放型学校図書館は必要ないのではないか。

(3) 図書館サービス網のあり方

- 概ね800mの円に一つ図書館があり8館となっており、その空白地域を埋めるような整備を行ってほしい。
- 中学校区に1図書館の配置が良いように感じる。理想の配置は10館で、大和町や鍋横にも図書館があった方がよい。
- 図書館はビジネス支援だけでなく、高齢者も含め、地域の居場所となってほしい。近くにあることが大切であり、本町・東中野図書館は残して欲しい。
- 鷺宮新図書館建設の際に、近くの江古田・上高田図書館を廃止することにならないか心配である。現在のニーズを踏まえ、地域図書館の数を確保することが大切。
- 本町図書館が廃館になると、弥生町1丁目や本町5・6丁目が800m圏内ではなくなる。その意味でも、8館から9館体制として本町図書館、東中野図書館は存続すべき。
- 地域開放型学校図書館をつくることで地域図書館を廃止するということは理解できない。その有効性を試験的に運営し、検証するなどの必要を感じる。
- 本町図書館が廃館になり新図書館（中野東中学校等複合施設内図書館、以下同様）ができた場合に新図書館に行くかどうかのアンケートをしてみたが、保育園児の足では遠すぎていけないという回答であった。身近に5万冊規模の図書館があるということが大切なので、本町図書館は残してほしい。
- 専門的な蔵書がたくさんある図書館を目指すのであれば、小さい図書館を統合して

より大きな図書館をつくることは合理的だと思う。ただ、個人的には、地域の人に身近な存在として図書館を配置してほしい

- 地域開放型学校図書館を整備すれば、全体の館数は増えることになる。本の受け渡しに区民活動センターなども活用すれば、これまで以上に利便性の高いサービスが可能となる。
- 区外で働く勤労者などには、図書館は駅近くにあった方が便利であり、地域にあることの必要性には疑問がある。
- 障害があるということは移動が困難ということである。蔵書もたくさんあり立派だが遠くにある図書館よりも、蔵書が少なくてものんびり自分の居場所として利用できる場が近くにある方が良い。